

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 環境厚生分科会	会議場所	第3委員会室
		担当職員	坂田
日 時	平成25年8月23日(金曜日)	開 議	午前 10 時 05 分
		閉 議	午前 11 時 47 分
出席委員	明田 酒井 苗村 竹田 藤本 眞継 立花 西口		
事務局	阿久根副課長、坂田		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 - 名	議員 - 名()

会 議 の 概 要

1 開会

2 事務事業評価対象事業の論点整理

< 明田委員長 >

前回選定した事業は「アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費」「ごみの減量・資源化等推進事業経費」「私立保育園保育委託経費」の3事業であり、現地視察候補は「私立保育園保育委託経費」である。しかし「私立保育園保育委託経費」について事務事業評価の対象として不向きではないかとのことである。事務局から内容について説明させる。

< 事務局 >

「私立保育園保育委託経費」について執行部に確認したところ、国の基準に従い委託経費を支出しており、経費の采配は保育園にある。事務事業評価の結果が拡大や縮小であった場合でも継続される事業で、事務事業評価の対象としては不向きな事業である。

< 明田委員長 >

「私立保育園保育委託経費」は評価対象事業から外していいか。

< 全員了 >

前回採決の次点は「高齢者生活支援経費」であるが、次点繰上げでいいか、新たに選定するか。

< 立花委員 >

「高齢者生活支援経費」の実態を知ることも重要である。また昨日の議会報告会で介護保険問題について、地域包括支援センターに介護支援のことを相談すると手がいっぱいだと聞いて貰えないと話聞いた。「地域包括ケア推進事業経費」の取組内容や実態を検証してみる必要があるのでは。「高齢者生活支援経費」と「地域包括ケア推進事業経費」を合わせて評価すればどうか。

< 苗村委員 >

事業として関連する予算が多岐に亘る部分があると思う。決算事務事業評価では、今まで複数の事業も1事業に絞っていた。今回「高齢者生活支援経費」の1事業しか出来ないのか、立花委員から提案があったように高齢者を地域で見守り・支援する観点から2事業に亘り事務事業評価が出来ないのか。

< 酒井副委員長 >

決算事務事業評価は評価対象事業を主な施策から施策毎に抽出するという事であったが、まず「地域包括ケア推進事業経費」と「高齢者生活支援経費」の2事業を一緒に審査することは可能か。

<事務局>

今回は事務事業評価を3項目と限定せず3項目程度としており、4項目でも可能である。

<酒井副委員長>

次点の「高齢者生活支援経費」を繰上げて良いかを確認し、了解であればその上で「地域包括ケア推進事業経費」も含めるのかどうか、次点でなく別の事業を選定するとなれば「地域包括ケア推進事業経費」以外の事業も確認する必要がある。

<苗村委員>

「高齢者生活支援経費」と「地域包括ケア推進事業経費」は共通する部分があると思うが、地域包括支援センターの事業となれば、事業が違うのではないか。地域包括支援センターに関わる事業として「地域包括ケア推進事業経費」を抽出されたのか。

<立花委員>

地域包括支援センターが何をしているかを明らかにしようとは考えていない。介護予防事業の内容について、地域包括支援センターに色々話をしても受け付けてもらえないことや、またボランティアで80歳代の方が週に何回か集まっておられるが、自分達だけでどうしていいかわからないと悩んでおられる。介護予防事業があるなら、何故そういう所に手を差し伸べないのか、事業効果が出るようにすべきでないかと考える。

<眞継委員>

昨日の議会報告会での意見は立花委員が言ったとおりだが、「地域包括ケア推進事業経費」をどう扱っていくのかを考えると、本市に5箇所ある包括支援センターの体制の問題が絡んでくると予想され、本来の事務事業評価ではテーマが限定されるため、包括支援センター全体としては踏み込んでいけない。もう少し大きな枠組みで考え、介護保険事業や高齢者福祉医療などを含め、月例会で議論をした方が良いのではと考える。

<苗村委員>

「高齢者生活支援経費」と「地域包括ケア推進事業経費」は関連した部分があるので、合わせてしていきたい。「高齢者生活支援経費」の事業内容に一人暮らし高齢者等が安心して自立した在宅生活が継続できるようにとあるが、現実の事業で実際に出来ているのか、改善をしたり見直していく所を検証していくということで、2事業を合わせて評価してはと考える。

<眞継委員>

介護保険事業特別会計「包括的支援事業・任意事業費」が包括支援センターに対する運営経費を支出している事業であり、議会報告会で取り上げられ本来議論すべき内容に深く関与してくるのはこの事業でないかと考える。そうなると多岐の項目を扱うことになるので、事務事業評価でなく月例会に関係者に集まっていたら、集中的に扱う方が事務事業評価の限られた時間で議論するより、良い検討が出来るのではないか。

<明田委員>

3項目目として次点であった「高齢者生活支援経費」を追加することで良いか。

<全員了>

次に4項目目をどうするか。

<立花委員>

「高齢者生活支援経費」と「地域包括ケア推進事業経費」とは深く関わっており、「高齢者生活支援経費」は個人に対する事業支援、「地域包括ケア推進事業経費」が地域等で行う事業支援であり、両方を検証した方が分かり易いのではないかと考える。また眞継委員から出された地域包括支援センターの実態は今後改めて月例会テーマとして取り上げて検証してはどうか。

<竹田委員>

「地域包括ケア推進事業経費」と「高齢者生活支援経費」は本当に関連しているのかを確認してからの方が良い。

<立花委員>

関連してる、していないに関わらず4項目目として選定したい。

<藤本委員>

2項目とも扱えば良いと考える。「高齢者生活支援経費」は各事業について今後どうしていくか検証し、「地域包括ケア推進事業経費」は助成金や介護予防事業としてこれだけの経費を支出しているので、目的に沿った効果があるのかを検証できればと考える。

<酒井副委員長>

最初は「高齢者生活支援経費」と関わるので合わせて追加するかどうかであったが、竹田委員から2事業がどう関連しているのか確認してからという意見に対し、立花委員から関連するかしらないかでなく「地域包括ケア推進事業経費」を扱ってはどうかという意見である。「高齢者生活支援経費」は前回の次点繰上げで決定したが、前回には他にも意見があり、それとは別に新しい4項目目を追加するかどうか、各委員の合意が必要であり確認してから議論を進めてはどうか。

<明田委員長>

4項目目に「地域包括ケア推進事業経費」を取り上げることについて確認をする。

<全員了>

<藤本委員>

事業数については4項目になっても良いということだが、現時点での1項目追加は日程的に可能なのかどうか事務局に確認する。

<事務局>

事業選定の通知はまだ行っていない。事務的な目途としては来週に総務文教と産業建設があり、その結果を取りまとめ通知するため、本日3項目から4項目になっても問題ない。

<明田委員長>

事務事業評価の視察先について意見はあるか。

<苗村委員>

保津町の議会報告会で、自治会長からアユモドキについて話を聞きに来た人がいないと言っておられた。問題点や事業執行について検証するのであれば、執行部の話を聞くだけより、実際に現場でアユモドキの保護をするために活動されている方の話を聞くことは大事だと考える。昨日の議会報告会では是非現場に来て欲しいとのことであったので「アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費」の現地視察を希望する。

<竹田委員>

苗村委員が言われたように、議会報告会での自治会長の意見は切な声だと思う。

アユモドキ保全協議会から実際に話しを聞かせてもらえるならば、行政とは違う部分で参考になる所が十分あると考える。

<西口委員>

日程については調整をすれば大丈夫だと思う。現場を見ないで色々な人が色々と言っているのも事実であり、現地や現場の話をきちっと確認する必要がある。現在保全協議会が活動しているのは、昔アユモドキが確認できた場所には現在も生息していると推測し、本流との合流点のテトラポット付近を1週間に1回のペースで川に入り調査をしている。見つけるのは難しいが、アユモドキと一緒に生息しているスジシマドジョウが調査の度に確認されている。また1メートル水位を上げれば、産卵行動を行うことが分かっており、見つからなくても可能性はあると専門の先生も言っており、調査のためにアユモドキ専用の隔離ダムが作れればと考えている。事業をするには大変な工事が必要になるが、1トン土嚢を両サイドから積み並べる仮設的な仕掛けを考えている。そのような拡大を含めた調査についても補助をして欲しいとの思いを持っておられ、その話も聞けたらと思う。現地についても2箇所ほど視察できればと考える。

<立花委員>

予算の主な経費にはアユモドキ保全協議会補助金の他に委託料が3件あり、委託先や調査活動など、どう活かされているのか必要な経費として増額をしないといけないのか検証する視点を明確にしないといけない。アユモドキについて熱心に行われているから現地視察するわけではなく、決算分科会の事務事業評価として、どう検証するか視点をしっかりとしないといけない。

<明田委員長>

現地視察と論点について他に何かあるか。なければ今の意見を踏まえて「アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費」を現地視察する。事務局にアユモドキ保全協議会との現地視察の調整を願う。

<事務局>

確認だが「アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費」の視察先はアユモドキ保全協議会を対象に説明者は保全協議会会長に依頼を行うで良いか。執行部の同行についてはどうか。

<西口委員>

アユモドキ保全協議会会長は保津町自治会長である。決算審査であるので執行部の環境政策課も同行願う。

<明田委員長>

現地視察を9月26日午前中に予定として、西口委員から意見のあった場所を含めて検討する。それでは各事業の論点を整理していきたい。まず「アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費」について、意見をだされたい。

<立花委員>

アユモドキが棲み続ける環境保全事業を推進するのが事業内容であり、24年度の主な経費は4点ある。そのうち3点の委託料を、どこに委託しているのか。外来魚駆除調査業務委託をすることにより、駆除の実態がどうで、外来魚が減っているのか増えているのか、調査結果に基づいてどうすればいいのかを検証する。アユモドキ生態調査研究委託では、どういう環境が一番適しているか分析されていると思うが、それに適しているのかどうか、そのためにどういう改善が必要なのか、一番生態に適した環境とはどういう所なのかを明らかにする。アユモドキ分布調査研究委託は、西口委員からもあったように現在の亀岡のなかで生息地以

外に生息しているのか、検証結果を確認することで、アユモドキが棲み続ける環境保全を亀岡でどう作り出していくのか委託経費が活かされているのかを検証していきたい。

< 明田委員長 >

次に「ごみの減量・資源化等推進事業経費」についてはどうか。

< 酒井副委員長 >

提案時に申し上げたが、生ごみ処理機の活用について補助金を続けているが、新しい施策も提案されており、今までの経過で効果が無かったものは見直しが必要な時期ではないかと思う。現在生ごみのリサイクルはうまく進んでいないという話であり、生ごみ処理機がどのように活用されているのか、機械がすぐ壊れてしまうということも聞くので、有効性について見ていきたい。

< 苗村委員 >

生ごみ処理機に限定した話であったが、事業内容に新たなごみ分別拡大・資源化について、効果的な実施方法を調査検討するとある。新たな分別拡大とはプラスチックごみの拡大であるが、それ以外のことについてはどこまで検討されているのか把握する必要がある。委員会視察で行った沼津市では生ごみ処理がうまくいかないとのことであったが、会派視察で行った九州の日田市では、生ごみを含めた資源化の取組みが一定成功していた。本市は生ごみの資源化があまり進んでいないが、問題点をしっかりと掴んで分別を進める上で何が出来るのか検討できたらと考える。

< 立花委員 >

クリーンかめおか推進会議はどういう団体で、どんな取組みをしているのか。資源化業務委託料は、全市的にペットボトル拠点回収を移行するために、大井町等で試行的に取り組みをした結果はどうか、今後の見通しはどうか。現在、不燃ごみの袋にペットボトルがたくさん入っているので、ペットボトルの分別が始まれば、埋立ごみは減ると思う。東別院町にエコトピア亀岡を建設したが埋立予定年数は15年間である。早急にペットボトル等の分別をするべきと考える。

< 酒井副委員長 >

今ペットボトルの話があったが、大井町等で試験的に行ったのはプラスチック容器の分別として、容器包装のリサイクルでありペットボトルは収集ボックスを置くことで対応する説明だった。今後の事業展開や方向性を確認するのも大事だが、今使っている経費が目的に対して効果的かどうか、どの費目に当たる部分をどういう視点で見ていくのかということである。私はクリーンかめおか推進委員の一人であり、ごみ拾いに行ったりしているが、クリーンかめおか推進会議補助金の内容や使われ方が、「ごみの減量・資源化等推進事業経費」の目的に対して有効なのかを見たい。

< 苗村委員 >

私もクリーンかめおか推進委員である。毎年総会で民間事業所や自治会が集まりごみ減量についての議論や、予算決算の内容を説明されている。

< 酒井副委員長 >

予算や決算の内容が啓発品配りなどであり、啓発品で本当にごみの減量資源化が進むのか、効果が見えないところであるので、使い方を少し考えてはと意見を言ったこともあるが、いまだに同じ内容である。配りものだけでなく、他に何か効果的な補助金の使い方があるのではという視点で見ていきたい。

< 眞継委員 >

事業目的に照らして実際に行われている事業が、どれほどの効果を持っているのか図るのは一番難しいと思う。例えばコンポストを使って生ごみの処理をすると、そのこと自体は実際に家庭から出るごみを減らし、出来た堆肥を有効活用する循環型の社会に近づく、しかし投入する経費やコンポストの生ごみ処理が無ければ本当に致命的な欠陥になったのかをどう図るのかという基準が分からない。コンポストに補助金を出すことは間違っていないが、もし出さなかったら生ごみ処理をする人が減り、収集車に積まれるごみの量が増えたのか、それが本当にいけなかったのか、そこが分からない。執行部は事業を行っている以上、必ず効果はあり実際に1家庭から出るごみは何キロ減りましたと説明すると思うが、それに投入する費用であったり、色々な事務経費であったり、そういうものを事業評価をする上で、どこで効果を図るのか、一件でも何キロでもごみが減ったらいいという話と違うと思う。そこをどういう風に判断するのが論点かなと思う。

< 立花委員 >

ごみの組成分析を東別院桜塚クリーンセンターでは年に4回程行っている。その中でも紙類か厨芥類、台所の生ごみがトップクラスである。乾燥させてからと生のままの状態で行う2つのやり方があるが、生のままの分析では厨芥類がトップになり、全国的にも厨芥類をどうするかが検討課題である。苗村委員からもあったが会派視察をした日田市では、国の補助を使い経費をかけて、家畜を含めた堆肥を作るのとバイオマスエネルギーと両方行っていた。本市の場合コンポストを使わなかったら、厨芥類が増えて可燃ごみの焼却炉に大きな影響を与えらると思う。分別することにより、焼却炉の負荷を減らしている。何を減らし分別して長持ちをさせ無駄なお金を使わなくていいのか検証しながら、わがまちのごみ問題を明らかにしていく必要がある。

< 眞継委員 >

現場で処理をする機能が高まれば、全体として延命や経費削減に繋がる部分が明確に見える。その上でそこに予算を投入しないといけないとか、もっとコンポストを広めないとかダメでないかとかシフトが可能になる。そこをまず本当にどうなのかを論点として持っておけば、舵が切りやすくなる。

< 苗村委員 >

酒井副委員長が言った生ごみ処理機の有効性と、コンポストを含めた生ごみの予算について、補助金が一体どれだけごみ減量化に効果が出てるのかと、すぐ壊れたり、音がうるさいとか電気代がかかるとかということで、中々普及しない問題もある中で、もっと補助金額を上げて広げるのか、コンポストも含めてしっかり見ていかないといけない。また根本的な生ごみ問題をどうするのかという所が一体どこまで進んでいるのかをはっきりさせたい。

< 藤本委員 >

生ごみ処理機の補助金を出しているが、堆肥を自宅に撒く所が無く困っているなど、市全体が循環型システムに対応が出来ていない。実際に補助をして効果があるのかどうか、新しい夕日ヶ丘の住宅もディスポージャーの生ごみ処理機がついているが、外すとなると費用が発生すると聞く。そういったものにも補助金が出ているのかどうかを確認したい。資源化業務委託料はどこに委託しているのか、その事業評価と効果がキッチリ出ているのかどうかハッキリしていただきたい。また分別収集に新たな分別拠点を設けることで、埋立ゴミ袋の中のペットボトルを減らして延命化を図るという動きもあるようなので、その辺を検証できたらと考

える。また集団回収報奨金を自治会や子供会に出しているが、実際には採算が合わないなどと聞くなかで、何の見直しもなく行っており、集団回収の報奨金が適正なのかどうか検証していく。

< 明田委員長 >

次に高齢者支援経費について何かあるか。

< 苗村委員 >

選定理由にも出しているが実態に合っているのかどうか一つ、実際に利用が少ないのはなぜか、この事業を一人暮らしの高齢者が安心してという目的から拡大をしていくのかそれとも違う事業にしていくのかを含め一つ一つの事業を検証していく必要がある。例えば生活援助員派遣事業経費であれば人数が減っているが、実際介護保険を受けていない人でも必要な人はかなりいるはずであり、減少の理由を確認した上で、高齢者の実態からどうしたらいいのか、縮小か拡大か本当に必要なのかを議論する必要がある。

< 酒井副委員長 >

減っているというのは前年度の資料だけでは分からないので、分かるような資料を整えて、苗村委員がおっしゃった視点で見たいと思う。事業内容に高齢者を地域で見守り・支援する活動を実践する団体に対して助成を行うと記載してあるが、「地域包括ケア推進事業経費」にも、高齢者地域見守り支援助成金があるので、内容の違いや実際どんなことをしているのか検証する。

< 立花委員 >

対象者が毎年変わるのか、例えば緊急通報装置設置事業であれば、電話が設置されれば一年だけの対象で無いと思う。その確認や過去5年間の事業実態の数字を経費と合わせて資料も提出を願いたい。また地域包括ケア推進事業経費は最近の事業であるが、継続事業としてどう充実させていくのかが重要であるので、施策の内容がどうなのかということ、決算にあたって検証していきたい。

< 事務局 >

先ほどの5年間分の資料については具体的にどの資料か。

< 立花委員 >

「高齢者生活支援経費」の主な経費にある5年間の資料である。

< 明田委員長 >

地域包括ケア推進事業経費については、立花委員の意見で良いか。

< 全員了 >

9月12日に決算特別委員会全体会の中に論点勉強会があり、分科会として1事業だす必要がある。正副委員長に一任を願いたい。

< 全員了 >

< 事務局 >

決算分科会の日程案をお配りしているので、確認を願いたい。

< 明田委員長 >

日程については了承を願う。

< 全員了 >

散会 ~ 11:47